

岐阜大学環境講座 「第1回長良川エコツアー2010 in 郡上」の取り組み

水上精榮

岐阜大学工学部ものづくり技術教育支援センター

1. はじめに

岐阜大学ものづくり技術教育支援センターでは、地域の協力を得てエコツーリズムの進展に関する調査研究を行っている。現在白山山系流域と長良川流域の自然と文化についての調査を進めているが、今回その一環として岐阜大学環境講座「第1回長良川エコツアー2010 in 郡上」を開催し、長良川上流（郡上市、写真-1）における地質分布と岩石・土壌について専門家のガイドによって視察し、長良川源流域の地質の特徴を学び、長良川上流域の地質と自然と文化についての情報交換を行い、長良川の上流域の環境についての最新情報を共有することができた。その取り組みについて報告する。

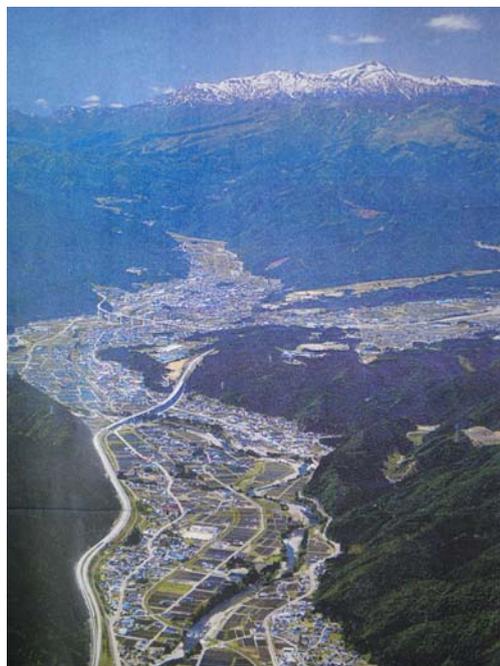


写真-1 長良川上流域（中日新聞より）

2. エコツーリズムとは

エコツーリズムの理念は自然環境や歴史・文化を対象とし、それらを体験し、学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持ちさらにそれを元に地域振興につなげてゆく観光のあり方である。関係する法律として国はエコツーリズム推進法（環境省）を2007年参議院本会議において成立させた。これは地域の自然環境の保全に配慮しつつ、地域の創意工夫を生かしたエコツーリズムを通じて、自然環境の保全、観光振興、地域振興、環境教育の推進等を図るものである。エコツーリズムの推進に取り組む地域の協議会は作成した全体構想を主務大臣に対して認定を申請することができる。認定を受けると、保護が必要な特定自然観光資源を指定することができるものである。図-1に実際に運営している世界遺産となっている屋久島地区エコツーリズム推進協議会HPを示す。

▲ 屋久島やエコツーリズムに関する情報

3. 長良川について

岐阜県を南北に流下する長良川（源流：大日岳、全長：166Km）は、四万十川（高知県）、柿田川（静岡県）と並んで日本の三大清流の一つといわれている。しかしながら岐阜県の

中央に位置する長良川上流域は近年観光開発が進んでおり、源流の高鷲町ひるがのまで国道と高速道路がつながり交通手段は向上したが、地域開発の進行と同時に水質（土砂と農薬などによる）の悪化等により貴重な自然が劣化しつつあるという問題を抱えている。また、長良川上流の本川・支川の個々の地域に残っている貴重な文化は人口減少と後継者不足等により徐々に失われつつある。この問題を明らかにして今後これ以上の自然と文化の劣化を防ぐための、保全システムの構築が求められる。

3.1 長良川上流の自然環境

ここでは長良川上流域を郡上市内（旧7町村：高鷲村、白鳥町、大和村、八幡町、明宝村、美並村、和良村）とした。長良川源流部にはブナの原生林や栃の大木等の貴重な広葉樹の森林が残っている。ひるがの高原に自生する水芭蕉は寒冷地の植物であり、氷河期の生き残りであるといわれており、連続した分布域の中では日本の南限に位置するとう特徴がある。ひるがの高原で最も手付かずの自然を残す湿原植物園はひるがの湿原の過去の生態系が残されており、ワタスゲ



写真－2 長良川上流の自然環境

やキンコウカをはじめとする貴重な湿原植物が自生している。大和町・和良町には国の特別天然記念物であるオオサンショウウオが生息し、守られている。美並町においては、国の天然記念物であるウナギの生息場所である粥川がある。粥川は長良川上流の支川流域として、最も良好な山林であり、降雨による濁水がほとんど起きない最も良好な清流であると思われる。長良川上流域は清流と魚類生息に特徴がある。

最近の生息魚類として在来種は10科25種、移入種は2科5種となっている。写真－2に長良川上流の自然環境の一部を示す。



写真－3 長良川上流の文化

3.2 長良川上流域の文化

長良川の上流域は縄文時代より人間生活が営まれていたことが、遺跡の発掘により明らかになっており、太平洋側だけでなく、北陸地方や飛騨地方との交流の接点となっており、歴史と文化の豊かな流域である。自然信仰や白山信仰等により自然と文化が守られ、育まれてきたものと考えられる。白山を開山し神仏習合信仰を始めたといわれる泰澄大師が立てたと言われる長滝白山

神社や高賀信仰（虚空蔵信仰）の拠点といわれる粥川の星宮神社・新宮神社等がある。盆踊りは八幡で行われる郡上踊りや白鳥踊りが有名であるが、もともとは各部落により行われていた古代からの拝殿踊りや念仏踊り等の部落踊りがあり、それらが郡上踊りの源流であると思われる。写真-3に長良川上流の文化の一部を示す。郡上市は2004年3月1日に郡上郡7町村の合併により誕生した。これより郡上市の文化を一元的に守り、進展させてゆくことはよいと考え

＜岐阜大学環境講座＞第1回長良川エコツアー2010 in 郡上

主催：岐阜大学工学部ものづくり技術教育支援センター

共催：岐阜大学地域連携室、ぎふ環境再生医の会、NPO 自然環境復元協会、NPO 地域 ICT 研究開発共同事業体、NPO メタセコイアの森の仲間たち、白山自然文化研究会

テーマ 長良川上流域の地質と自然と文化（1）

講師 尾田孝夫氏（元郡上市立中学校校長）

日時 平成22年10月16日（土）～17日（日）

会場 郡上市（大和町・白鳥町・高鷲町・八幡町・明宝町・和良町）

（図-5にエコツアーの対象となる長良川上流域の地質分布を示す。）

今回は地質の専門家である尾田孝夫氏に全コースのガイドをして頂き、長良川上流（郡上市）における地質分布と岩石・土壌を観察し、長良川源上流域の地質の特徴を学び、長良川上流域の地質と自然と文化についての情報交換を行い、またバストーク、旅館での懇親会等により参加者同士の親睦を深めることができた。2日間の日程を表-1、2に示す。

表-1 長良川エコツアー第1日日程

<p>第1日日程 バス停集合・出発 9:00 7:30 岐阜大学郡上市大和町徳永大和振興事務所前集合・出発 長良川の川原において美濃帯岩石・河原の石の種類・アンモナイトの化石の発見場所を見学 白鳥町西坂 両輝石安山岩（柱状節理）・鉄平石 白鳥町那留 鳴石・褐炭層 白鳥町六ノ里（栃洞） 板状節理 白鳥町阿多岐 珪藻土 高鷲町鷲見上野高原 白山・大日岳眺望、赤土と高原野菜 ひるがの高層湿原と分水嶺 長良川源流 夫婦滝 安山岩 17:00 高鷲町 湯の平温泉 懇親会、宿泊 <旅館「ゆのひら」郡上市高鷲町</p>
--

表-2 長良川エコツアー第2日日程

<p>第2日日程 7:00 朝食、長良川見学 7:40 出発 八幡町 川原見学 明宝町気良 畑佐鉱山跡 明宝町水沢上（みぞれ） 花崗岩の露頭 明宝町資料館 八幡町安久田の石灰岩 和良町鹿倉 濃飛流紋岩 16:30 郡上市大和町徳永 鹿倉柱状節理（濃飛流紋岩） 18:00 岐阜大学 解散</p>

今回のエコツアーの理解を深めることができるようにスタッフと講師によるツアーコースの事前調査を行い、図-6に示すように長良川エコツアーガイドブック（17ページ）を作成して当日参加者に利用して頂いた。第1日めに宿泊した旅館「ゆのひら」において懇親会を行った。写真-4にその様子を示す。また写真-5に長良川エコツアーの各場所の様子を示す。



写真-4 懇親会の様子

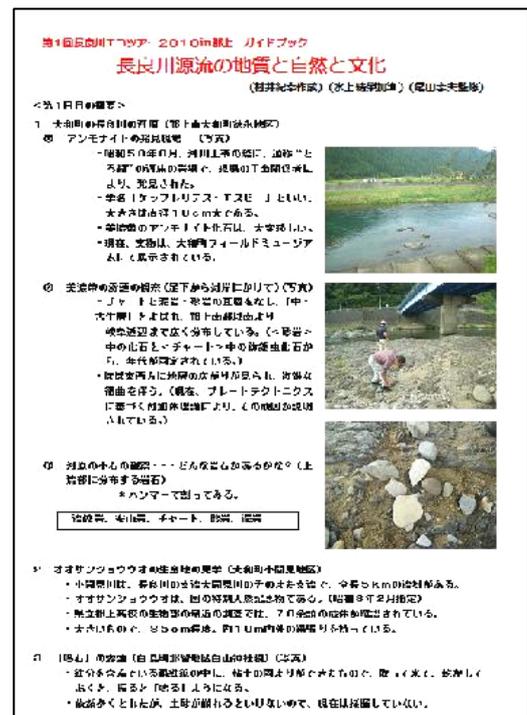


図-6 長良川エコツアーガイドブック



アンモナイト発見場所（大和町）



長良川河原の石（大和町）



鳴る石の発見場所（白鳥町）



濃飛流紋岩（白鳥町栃洞）



珪藻土（白鳥町阿多岐）



火山灰土（高鷲町上野高原）



湿原植物園と泥炭層
（高鷲町ひるがの）



夫婦滝と安山岩
（高鷲町ひるがの）



白鳥湖層（高鷲町古屋）



吉田川流紋岩と河原の石
（八幡町新橋下流）

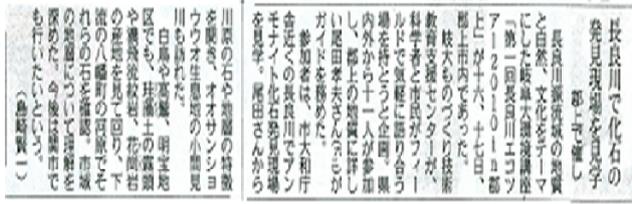


畑佐鉞山跡（明宝町気良）



濃飛流紋岩（和良町鹿倉）

写真－5 長良川エコツアーの各場所の様子



郡上ケーブルテレビ



図ー7 新聞とケーブルテレビの掲載

6. エコツアーに関する評価

6. 1 マスコミの報道

今回は事前にマスコミへの取材依頼をお願いし、中日新聞と郡上ケーブルテレビにより地域に報道いただくことができました。図ー7に新聞とケーブルテレビの掲載を示す。エコツーリズムの進展（環境改善と地域振興等）においては地域からの情報発信が重要であり、マスコミ関係者のご協力を常にお願ひするものである。

6. 2 エコツアーの評価

エコツアーの評価として表ー3にエコツアー参加者の感想を示した。参加者の感想としては、前向きな感想を頂き、大人の環境学習、地域発見学習としての役目を果たしたものと受け止めることができる。表ー4にエコツアー参加者の評価と課題として示した。エコツーリズムの目的である自然環境を理解していただくことに関して、一定の成果があったものと考えている。文化においては今回はあまり時間をとることができなかつたが、地質由来の温泉（湯の平温泉）に入り、地元のミネラルウォーター（郡上の天然水）を口にすることなど地域文化に触れてもらえたものと考えている。また今回のエコツーリズムの複数の旅行者が地元地域に宿泊したり、食事をとったりすることによって少しではあるが経済的にも地域振興として成果があったものと考えている。少しではあるが地域に喜んでいただけたのではないかと思います。

参考文献

1) 木呂子豊彦, 水上精榮他, 自然文化観光の方法と展開, 第9回自然環境復元研究発表会, 東京農業大学, 2009.3、2) 水上精榮他, 長良川エコカフェ 2009と地域連携 (I), 名古屋工業大学技術研究発表会, 2009.9、3) 水上精榮, 長良川エコカフェ 2009の取り組み, 岐阜大学環境ユニバーシティ, 2009.11、4) 水上精榮, 長良川上流域の自然と文化について (I), 三重大学技術報告会, 2010.2

表ー3 エコツアー参加者の感想

- 1. エコツアーについての感想**
- ・現地において実物を対象に講義していただき、大変良かったと思います。
 - ・講師もいい方ばかりで現地がわかってよかったと思います。
 - ・良い計画をして頂きありがとうございました。
 - ・心のこもったツアーで楽しく勉強させていただきました。感謝しております。
 - ・講師の尾田さん（講師）と村井さん（講師）の事前の準備は頭が下がる思いでした。
 - ・充分なご説明があり感謝しております。
 - ・郡上の名所を発見した感があります。
 - ・懇親会が良かった。

表ー4 エコツアー参加者の評価と課題

- 2. 参加者の評価と課題**
- ・今回のテーマは奥美濃地域の（古）湖をめぐるという壮大なテーマで大変勉強になりました。
 - ・今回のツアーコースを常設コースとして整備されることを期待します。
 - ・各地域の観光行政担当者の参加があると良い。
 - ・10名程度の参加者で、移動、対話等がスムーズに行われた。
 - ・若い人、家族などのグループの参加を広げて欲しい。
 - ・これからは「地域」、「農」をキーワードとした人々の生活、レクリエーションへの活動が期待されます。
 - ・一つ一つの積み重ねが、形や感動をつくり上げてゆくと思っています。
 - ・エコツアーとエコカフェの違いがわかりませんが、一泊することと、主に現場を視ることで、同行したメンバーとも大変親しくなれた様に思います。
 - ・全ての（に関連する）基礎知識と思います。
 - ・地元学の一つで住民の知る必須項目（と思います）。
 - ・学校教育にも必要（と思います）。
 - ・現地で直接研修した（ことがよい）。